

# 柏原市

## スタディ・アフター・スクール事業

学科・専攻 : 関西福祉科学大学  
心理科学科、教育学科  
担当教員 : 心理科学科 宇恵弘  
教育学科 吉岡尚孝、折口量祐

連携先 :  
柏原市教育委員会

### プログラム内容

児童の学力向上を図るためには、学校での授業改善とともに、家庭学習の定着が求められる。そのため、関西福祉科学大学と大阪教育大学の学生、さらに地域ボランティアのサポートにより、柏原市内の小学校において、平日の放課後に学習支援活動（児童が持参した宿題や、柏原市教委が準備した補助課題（通称iプリ）の実施、その他音読や読書など）を行っている。

本学では、心理科学科と教育学科の学生が参加している。市内の柏原小学校、玉手小学校、旭ヶ丘小学校にて週に1度活動している。

### 成果・考察

令和5年度より担当校が1校増加した。火曜日に柏原小学校、水曜日に旭ヶ丘小学校と堅下南小学校、金曜日に玉手小学校にて活動を実施した。柏原小学校では3・4年生の児童が前期（6月6日から7月4日）28名、後期（10月17日から2月27日）30名、旭ヶ丘小学校では4・5・6年生の児童が前期（6月14日から7月5日）5名、後期（10月18日から2月7日）5名、堅下南小学校では3・4年生の児童が前期（6月21日から7月12日）11名、後期（10月18日から2月14日）11名、玉手小学校では3・4年生の児童が前期（6月16日から7月7日）6名、後期（9月8日から2月9日）6名それぞれ参加した。

今年度も各校とも両学科の混成チームを組成し協力して活動に臨んだ。ボランティアとして参加した学生（学生指導員）にとっては、児童と接することにより、大学で学修した内容が経験をもって体得することができた。一方、プログラムに参加している児童にとっては、学習習慣と学習内容の定着をはかることができた。



関西福祉科学大学  
心理科学科  
宇恵弘 教授

本活動は、参加学生に対して児童と触れ合うよい機会を提供でき、参加児童にとっても日頃接する機会の少ない大学生と触れ合うことでお互いにコミュニケーションの能力の向上が見込まれると考えています。

心理科学を専攻している学生なら、発達心理学や教育心理学の学修が生きると思われ、教育学を専攻している学生なら、指導法の学修が生きると考えています。さらに、教育学科の学生であれば、教員採用試験にも役立つ知識等を得ることができるでしょう。

毎週の活動を進める中で、仲間との協力、企画力、教育力の向上が望めると考えています。

関西福祉科学大学  
心理科学科 3年生  
後藤 尽平

私の担当した小学校では、3年生と4年生11名が参加し、学生指導員は6名で対応しました。教室は図書室を利用し、活動時間は各回約45分でした。

学生指導員の指示通りに動いてもらえない場合もあり大変な面もありましたが、活動の回数が増えるに従い児童とのこころの距離感も近くなり、最終の活動の時には参加児童から次年度も参加したいと言われてもらえ、喜びとともに達成感を得ることができました。

児童との関わりが有意義であったのはもちろんですが、活動のリーダーとしての経験も今後には生かせると感じています。